



イベントの打合せ

私は、「やってみたいこと」や「町の課題解決」を実現する、長泉未来人ウィプロ事業に参加し、「防災」をテーマとしたイベント「防災festa」を10月5日(土)にコミュニティながいずみ駅前広場で開催しました。

身近なところで、いつ災害が起こるか分からない状況の中で、少しでも子どもたちや親御さんに楽しみながら考えるきっかけを

杉山

Q 皆さんが取り組んだ未来人事業を紹介してください

私は大学2年生の時に「オフィシャルマガジン・メイキングスクール」事業に参加しました。これはマガジン作成の知識や技術を学び、私たち未来人が興味のあるヒトやモノ、

土屋

若い人たちが賑わいを作ろうという発想の中で、それを「防災」という切り口であの場所を活用しようと思ってもらえたこともうれしいですし、時代を敏感に捉えている証ですね。

町長



防災festa屋外映画上映

作りたいと発案し「フェスタ」という形にしました。



オフィシャルマガジン・メイキングスクール

コトを取材・編集し1冊の冊子を作成するもので、実際に町民インタビューをしたり、未来人同士で作業をしたりしました。

それがきっかけで長泉町への愛着が深まり、より知りたい、もっと良いところを発信したいという想いが芽生えました。

また、下土狩駅前コワーキングスペースでマネージャーもさせていただいています。

コワーキングスペースは、さまざまな想いを持つ方々の声を聴ける場所として、すごく大事な場所だなと思っています。

利用者同士での会話や、私たちマネージャーが橋渡しをするなど、

そこにコミュニティが生まれ、サイドプレイス(自宅や職場とは別の心地のよい第3の居場所)となっていくのが、私としてはうれしいです。

町長

オフィシャルマガジンの制作は、取材先のアポ取りから編集まで、自分たちで全てを手掛けたかったです。行政がつくる広報紙とは一味違い、完成度も高いものでした。

また、コワーキングスペースは、移住者や町内在住者が利用できる作業スペースのほか、何かおもしろいことをやっている方、がんばろうとしている方が、交流し、発信していく場として生かしてほしいです。



下土狩コワーキングスペースの仲間

新春会談 未来人×町長

～若者と語る町の未来～



あさが けんすけ
浅賀 健介
(大学2年生)

とみおか
富岡 あまね
(専門学校3年生)

いけだ おさむ
池田 修
長泉町長

つちや なゆき
土屋 奈幸
(大学4年生)

すぎやま けいすけ
杉山 恵亮
(大学3年生)

町の事業に参加された未来人4人にお集まりいただき長泉町の未来を語っていただきました。

町長

新年あけましておめでとございます。

令和7年は、第二次世界大戦終戦から80年、阪神淡路大震災から30年を迎えるとともに、長泉町も町政施行65年の節目の年にあたります。

私も町長に就任してから7年余りが経過しました。勢いのある元気なまちづくりをしたい」という想いで都市ブランド戦略「ちようどいいがいちばんいいNagazono」をスタートさせ、都市計画道路池田柵線の開通、桃沢野外活動センターのリニューアル、パークゴルフ場の整備、鮎壺公園も今年3月9日(日)にオープンを予定するなど都市基盤も整ってきました。

また、人口減少が加速する中でも当町は引き続き微増を維持し、出生数においても減少傾向にあるものの高い水準を維持しています。

こうした中で、20歳〜24歳までの若年層の首都圏への流出に少しでも歯止めをかけるため、平成30年度から、若者がこのまちを愛し、まちの未来を担う人材として定住することを応援したく、未来人として



登録する事業を創設しました。

これは、定住応援奨励金事業や町の事業に参画いただくことで新幹線通学定期代の一部を補助する事業です。



飛騨古川駅視察



JR東海への意見発表

長泉町は中学校を卒業すると若い人たちの交流や、生の声を聴く機会がなくなってしまう。そのため、通学定期代も親への経済的支援でなく、一緒にまちづくりをしたかったんです。

富岡

私は、町内の飲食店と町の特産品を使って新商品を開発し、ブランド認定品の登録や地域活性化を目指す「長泉ブランドワークショップ」事業に参加しました。

竹原の「omono pan」さんや下土狩の「米屋のいっぶく堂」さんの協力により、町特産品やブランド認定品、姉妹都市長野県青木村の特産品を使った商品を開発し、11月24日(日)の産業祭で販売することができました。

青木村のことも知ることができて良かったです。

町長

今回ご協力いただいた2店舗は忙しいながらもとても事業に協力的で感謝しています。
そのようなお店の想いも感じながら皆さんにさまざまな経験をさせていただいたので良かったです。



販売報告会



産業祭での販売

浅賀

私が参加した事業は、大学卒業後のライフ設計×長泉町の活かし方をテーマにしたJR東海グループが沿線地域と連携して関係人口を創出するためのサイト「conomiichi（コノミチ）」を活用したプロジェクトです。その中では、自分の趣味や生活状態から、なぜそれをやっているかを深く掘り下げ、視察やワークショップを通じて「自分の原点は何か」「それを社会でどう活かせるか」などを真剣に考えることができました。

町長

この事業をリードされている方は、日本中の多くの地域に足を運び、さまざまな経験を積まれたスペシャリストです。そのような方が「長泉町」をテーマに取り上げていただいたこと自体がありがたいことでした。
活動は大変だったと思いますが、真剣に取り組んでいただけてうれしかったです。



Q 長泉町に住んで良かったことは

富岡

新幹線通学の補助です。進学が決まった時に、少し都会へ出たいと思っていました。しかし、一人暮らしや電車通学は時間やお金の負担が大きい。そんな時、新幹線通学補助の存在を知りました。

地元で保育士になりたいので、補助を使って良かったと思います。



土屋

都会の街と比べて、人の温かさが違うところです。どこに行っても人の温かさを感じる場所が多く、一人一人に愛があり、人柄が温かいところが好きです。

杉山

長泉町は学生のことをちゃんと見てくれているのが良いところだと思います。

富岡

私は、「どこに住んでいるの?」と聞かれたときに、「沼津と三島の間の小さな町」と答えています。全国的に有名な町がありませんが、有名な町になったらうれしいです。

町長

私も「どこから来たのか」という問いに胸を張って「長泉町」と答えられる町にしたいと思っています。知名度はまだですが、東京などから移住された方々に聞くと、「そこそこ名前知られてますよ」と言われるようになってきました。有名になることが目的ではなく、名前が浸透すれば、町民のプライドになる。そういう意味で有名な町になりたいですね。

今回は皆さんの長泉町に対する想いや気持ちがすごく伝わってきました。私も町長として、皆さんにもっと町のことを好きになっていただけるよう、その想いに応えていかなければいけないし、これから皆さんの想いを共有したいと思っています。

皆さんが、それぞれの夢に向かって歩み、将来、町で活躍いただけるよう期待しています。本日はありがとうございました。

役場へ行っても学校でも、どこに行っても、ちゃんと一人一人を見てくれているのでありがたいです。



浅賀

私は小学生までは別の地域に住んでいましたが、公共交通機関もほぼ無く、不便でした。長泉町はコンビニもたくさんあって、公共交通機関も充実し、何をするにも困りません。自然も豊かで、ちょうどいいところが、長泉町の良さだと思います。

町長

長泉町は何でも揃っている町ではありませんが、多くのことはカバーできます。その発想上にブランドメッセージ「ちょうどいい」があります。何でも1番のまちなではなく、前向きに捉えようという意味で、皆さんが選んだキーワードなんです。それを良しとしていただけていることがうれしいです。

Q どのようなまちになってほしいですか

浅賀

人との関わり合いの場が少なくと感じていて、中学時代の友人たちと話した時に同様の話題があり、人と関わる場所がもう少しあったらうれしいなと思います。



杉山

学生や子どもを大切にしてくれるまちを、これからも続けて欲しいなと思っています。私も将来、子どもたちを絡めたイベントを立ち上げることが目標の一つでもあるため、イベントなどで人との繋がりができる町になったらいいなと思います。

町長

杉山さんが参加された長泉未来人ウィプロ事業は、コミュニティながいずみ駅前広場で防災をテーマ

に開催されました。参加者が全員と交流することは難しいことですが、一歩として、「大学生がやっている事業」ということで、多くの方が足を止めてくれました。活動してくれた方とイベントに参加してくれた方が交わっていくことで、「人と関わり合える場所の一つになる」と思っています。今回、さまざまなテーマで取り組んだ方々との交流をぜひ、大事にして欲しいと思います。

土屋

より良くという意味では、サイドプレイスのようなコミュニティが生まれる場所に、みんなが集まって、何かが生まれる場所が増えていくといいです。私も今後、さまざまな場所で人とのつながりを深めたいと思っています。

若者から高齢者まで一人一人が輝ける、そんなまちになったらうれしいです。

